

足立区生涯学習センター

メディアコミュニケーション学部マス・コミュニケーション学科

3年 長山 梨央

1. 実習企業（団体）の概要

区民がグループやサークルで、自主的に学習したり活動したりする施設。『足立役立事業』として知識やスキルの習得のための学びの場づくりを行うとともに、生きがいづくり、若者支援、青少年の健全育成、母親支援、コミュニティの活性化など、地域や社会のさまざまな課題に対して、その解決につなげるための事業を行っている。

- ・所在地 東京都足立区千住 5-13-5（学びピア 21 内）
- ・区長 近藤 やよい

2. 実習内容

◎自身でプログラムを考え、実施する。

- ・プログラムを実施している様子を見学
- ・施設内の設備見学
- ・テキスト、パワーポイント、ポスターの作成
- ・自宅での作業

3. 実習の成果

私はこのインターンシップで社会人としてどう行動すべきか、組織の一員としてどう組織を支えるべきなのか、また、他の職業とは違い、社会教育の現場で最も大切にすることは何かを学ぶことが出来ました。

まず、社会教育の現場にて専任の社会教育主事の仕事を目にし、どのように実際の社会教育を行っているのかを確認しました。次に私が行う社会教育とは何かについて考察し、専任の社会教育主事の方に精査していただき、実際に行うにはどのようにすれば良いのかを確認しました。実施するにあたり、ポスターやテキストを作成しました。そして、社会教育主事の方からは、「プログラムを実施する際に来てくださる利用者は”何を求めるのか”を第一に考えると良い」という助言をいただきました。結果、頭で考えていた通りの完璧なプログラムは実施できませんでしたが、利用者が求めるものに沿ったプログラムを実施することが出来ました。これらのことから、社会人としての行動や組織の一員としてどのように貢献していくのか、社会教育主事は現場において何を大切にすべきかを学びました。

4. 実習の感想

私は「鳥の目、虫の目、魚の目で教育を見ることが社会教育の現場において大切」ということを、念頭に置いてこのインターンシップに臨みました。つまり、全体、個人そして流れを見ることをこのインターンシップのスローガンにしていました。実際に、利用者に関わる機会はプログラム実施日までではありませんでした。ですが、実際にプログラムの実施日になり、関わってみるとスローガンに掲げていたことを使うことはあまりありませんでした。むしろ関わる前、準備段階でこそスローガンは役立ちました。現場の利用者と接する際は、その一人一人を見て対応することこそが大切で、スローガン自体はそれほど重要ではないと感じたのです。

今回の経験から私は、スローガンや計画はあくまで概要でしかなく、現場では利用者目線に立った柔軟な対応を取ることこそが大切であると学ぶことが出来ました。このようなとても貴重な体験が出来、光栄に思うと共に、この経験を今後の社会教育に関わる機会においても生かしていきたいと思えます。

— 実習プログラム —

日数	実習日	実習内容
1日目	3月2日(水)	インターンシップの説明・施設内の見学
2日目	5月7日(土)	打ち合わせ
3日目	7月18日(月)	打ち合わせ
4日目	7月23日(土)	打ち合わせ
5日目	7月28日(木)	打ち合わせ
6日目	8月8日(月)	打ち合わせ
7日目	8月22日(月)	打ち合わせ
8日目	9月12日(月)	打ち合わせ・プログラムの見学
9日目	9月16日(金)	打ち合わせ
10日目	9月19日(月)	リハーサル・最終打ち合わせ
11日目	9月25日(日)	実施
12日目	10月2日(日)	実施・反省